



## FIA フローインジェクション解析システム (モデル ER282)



- PC が FIA データワークステーションに変身
- プログラミングは一切不要 – プラグ & プレイ
- 最大2台の検出器からのシグナルを収録
- 入力ゲインは  $\pm 2 \text{ mV} \sim \pm 10 \text{ V}$  の独立設定
- デジタルシグナル処理により優れたS/N比を確保
- TTL、又は接点リレーをトリガー信号としてオートサンプリング装置等の外部機器を制御
- USB 2.0 及び 1.1 に対応

### 概要

ER282 FIA フローインジェクション解析システムは PowerChrom® 280 ハードウェアユニットと Windows 対応の Chart™ ソフトウェアから構成されており、フローインジェクション解析 (FIA) 及び同等な実験に最適です。

1台、又は2台のアナログ電圧出力を持った検出器やインテグレート出力からのシグナルを記録します。殆どのメーカーの検出器に使用できます。

### 使用するコンピュータ

Windows 2000、XP 以降の OS で、最小 128 MB RAM、及び USB ポート付きのコンピュータが必要です。

### ソフトウェア

Chart ソフトウェアと Chart 専用の FIA (Flow Injection Analysis) 及び Event Manager エクステンションが各 ER282 FIA フローインジェクション解析システムに含まれています。FIA エクステンションは Chart データを FIA 解析ウィンドウにコンバートしピーク解析します。また、Event Manager は外部装置のオン/オフコントロールに使用し PowerChrom のデジタル出力を介して制御します。

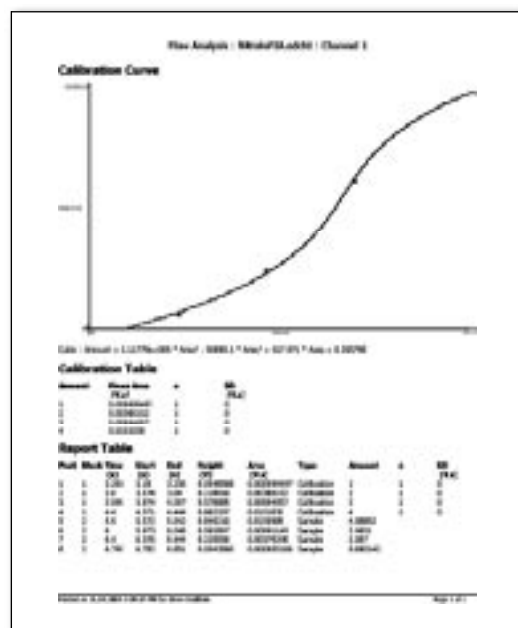
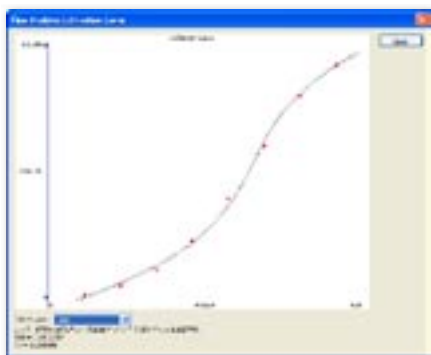
FIA Chart エクステンションは自動的にピークを検出し、'キャリブレーション Calibration'、'サンプル Sample' または '除外 Excluded' に三分類します。ピークポジションのマニュアル編集や新ピークのセレクションも可能です。

ER282 FIA フローインジェクション解析システムのハードウェアは、クロマトグラムの記録解析ソフトウェア ES280 PowerChrom にも対応します。



ピークを自動的に検出し、フローアナリシスウィンドウに表示します。

適化する検量線：  
直線、原点を通る直線、二次曲線、三次曲線、及び点渡り曲線から選択



ピークレポート印刷も簡単です

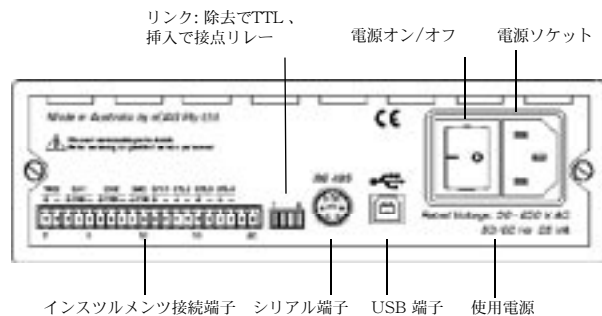
## 仕様

アナログ入力			
入力チャンネル数:	2		
入力構成:	シングルエンド、又は差動		
増幅及びハードウェアの分解能:	レンジ	分解能 ( $\mu\text{V}$ )	ゲイン
	$\pm 10\text{ V}$	312.5	1
	$\pm 5\text{ V}$	156.25	2
	$\pm 2\text{ V}$	62.5	5
	$\pm 1\text{ V}$	31.25	10
	$\pm 0.5\text{ V}$	15.625	20
	$\pm 0.2\text{ V}$	6.25	50
	$\pm 0.1\text{ V}$	3.125	100
	$\pm 50\text{ mV}$	1.56	200
	$\pm 20\text{ mV}$	0.625	500
	$\pm 10\text{ mV}$	0.3125	1000
	$\pm 5\text{ mV}$	0.15625	2000
	$\pm 2\text{ mV}$	0.0625	5000
最大入力電圧:	$\pm 30\text{ V}$		
入力インピーダンス:	$\sim 1\text{ M}\Omega$    $47\text{ pF}$ @ DC		
恒久 antialias フィルター:	900 Hz, 2次ベッセル		
低域通過フィルター:	1, 2, 5, 10, 20, 50, 100, 200, 500 Hz		
DC ドリフト:	始動時にソフトウェアで補正 $0.3\ \mu\text{V}/^\circ\text{C}$ RTI (定格)		
CMRR (差動):	$-105\text{ dB}$ @ $100\text{ /s}$ (定格)		
チャンネルクロストーク:	$-140\text{ dB}$ (定格)		
入力ノイズ (p-p):	レンジ	@ $1\text{ /s}$	@ $10\text{ /s}$
	$\pm 10\text{ V}$	$20\ \mu\text{V}$	$40\ \mu\text{V}$
	$\pm 1\text{ V}$	$2.0\ \mu\text{V}$	$4.0\ \mu\text{V}$
	$\pm 100\text{ mV}$	$0.2\ \mu\text{V}$	$0.4\ \mu\text{V}$
	$\pm 10\text{ mV}$	$0.2\ \mu\text{V}$	$0.4\ \mu\text{V}$
サンプリング			
ADC 分解能:	16 bit		
サンプリング速度:	$0.1\text{ /min} \sim 1000\text{ /s}$		
直線性誤差:	$\pm 2\text{ LSB}$ ( $0 - 70\text{ }^\circ\text{C}$ )		
出力アンプ			
出力構成:	シングルエンド		
出力分解能:	16 bits		
最大出力電流:	最大 $10\text{ mA}$		
出力インピーダンス:	$0.1\ \Omega$ 定格		
スlewレート:	$6\text{ V}/\mu\text{s}$		
セッティングタイム:	$2\ \mu\text{s}$ (LSB 変化に対しFSRの0.01% まで)		
出力レンジ:	レンジ (V)	分解能 ( $\mu\text{V}$ )	
	$\pm 10$	312.5	
	$\pm 5$	156.5	
	$\pm 2$	62.5	
直線性誤差	$\pm 1\text{ LSB}$ ( $0\text{ }^\circ\text{C} \sim 70\text{ }^\circ\text{C}$ )		

インストゥルメンツ接続端子	
形式:	20ピンのオスコネクター、3.5 mm 間隔 ターミナルブロックアダプター付き
デジタル出力コントロール	
出力:	4つの接点リレー又は TTL レベル、後部パネルリンクで切り換え
接点リレー出力:	最大 $100\text{ mA}$ 、最大 $250\text{ V}$ 'On' 時最大抵抗 $20\ \Omega$ クローズ時間 $2\text{ ms}$ 、オープン時間 $1\text{ ms}$ .
TTL レベル出力:	各最大 $15\text{ mA}$
マイクロプロセッサとデータ通信	
CPU:	PPC403 GCX (30 MHz)
RAM:	4 MB DRAM
データの通信:	USB 2.0 若しくは 1.1 に対応
シリアル端子	
RS485	メーカーでの検査目的専用
外寸	
サイズ (w x h x d):	$200 \times 65 \times 250\text{ mm}$ ( $7.9 \times 2.6 \times 9.8$ " )
重量:	$1.75\text{ kg}$ ( $3\text{ lb } 14\text{ oz}$ )
使用電源:	$90 - 260\text{ V AC } 50/60\text{ Hz}$ , $6\text{ VA}$ ( $25\text{ mA}$ @ $240\text{ V}$ 又は $52\text{ mA}$ @ $115\text{ V}$ )
作動条件:	$0 \sim 35\text{ }^\circ\text{C}$ $0 \sim 90\%$ 湿度 (非結露)
eDAQ Pty Ltd は予告無く仕様を変更することがあります。	



指示ランプ



注意: eDAQ ハードウェアユニットは1年間の品質補償です。

[www.eDAQ.jp](http://www.eDAQ.jp)

E-mail: [info@edaq.jp](mailto:info@edaq.jp)

PowerChrom 及び e-corder は eDAQ 社の商標登録です。  
それ以外の商標はそれぞれの登録者の所有です。

ドキュメント番号: M-ER282-0405

複写元 © eDAQ 2005